品川区
障害福祉計画・障害児福祉計画策定のための
基礎調査報告書
＜概 要 版＞

令和８年３月

品　川　区

目　次

Ⅰ　調査の概要 1
１　調査の目的 1
２　調査対象 1
３　調査期間 1
４　調査方法 1
５　配付・回収結果 1
６　調査結果の表示方法 2

Ⅱ　調査結果の概要 3
①回答者【在宅障害者、在宅障害児、施設入所者】 3
②年齢【在宅障害者、在宅障害児、施設入所者】 4
③同居家族【在宅障害者】 5
④住まい【在宅障害者】 6
⑤手帳の種類【在宅障害者】 6
⑥身体障害者手帳の等級【在宅障害者】 6
⑦愛の手帳の程度【在宅障害者】 7
⑧精神障害者保健福祉手帳の等級【在宅障害者】 7
⑨主な介助者【在宅障害者、在宅障害児】 8
⑩主な介助者の年齢【在宅障害者、在宅障害児】 9
⑪相談時の困りごと【在宅障害者、在宅障害児】 10
⑫外出頻度【在宅障害者】 11
⑬日常生活での困りごと等【在宅障害者】 12
⑭今後の就労意向【在宅障害者】 13
⑮障害のある人が働くために必要なこと【在宅障害者】 14
⑯サービス利用の際の困りごと【在宅障害者、在宅障害児】 15
⑰医療的ケアについての困りごと【在宅障害児】 17
⑱災害発生時での困りごと【在宅障害者、在宅障害児】 18
⑲障害に対する差別や偏見等の有無【在宅障害者、在宅障害児】 20
⑳成年後見制度の利用意向【在宅障害者、施設入所者】 21
㉑希望する将来の暮らし方【在宅障害者、在宅障害児、施設入所者】 22
㉒違うところで暮らしたいと回答した人の希望する場所【施設入所者調査】 28

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

この調査は、令和８年度に予定されている「品川区第８期障害福祉計画」および「品川区第４期障害児福祉計画」の策定にあたり、区内の障害のある方の生活状況や意見・要望などの障害ニーズを把握し、今後の障害者施策の推進に役立てることを目的として実施しました。

2　調査対象

調査対象者	対象者内訳
在宅障害者（18歳以上）	障害福祉サービス利用者（全員）
	障害福祉サービス未利用者（無作為抽出）
在宅障害児（18歳未満）	障害福祉サービス利用者（全員）
	障害福祉サービス未利用者（無作為抽出）
施設入所者	施設入所者（全員）
区内事業所	区内障害福祉サービス事業所（全事業所）

3　調査期間

令和７年９月 26 日～令和７年 10 月 24 日

4　調査方法

郵送による配付、郵送回収およびＷＥＢ回答

5　配付・回収結果

（１）障害者・障害児

配付数 6,008 人、有効回収数 2,850 人、有効回収率 47.4%

調査対象者	配付数	有効回収数			有効回収率
		ＷＥＢ回答	紙回答	計	
在宅障害者（18歳以上）	4,070	598 (32.6%)	1,234 (67.4%)	1,832 (100%)	45.0%
在宅障害児（18歳未満）	1,645	490 (55.1%)	399 (44.9%)	889 (100%)	54.0%
施設入所者	293	12 (9.3%)	117 (90.7%)	129 (100%)	44.0%
計	6,008	1,100 (38.6%)	1,750 (61.4%)	2,850 (100%)	47.4%

（２）区内事業所

配付数 198 事業所、有効回収数 118 事業所、有効回収率 59.6%

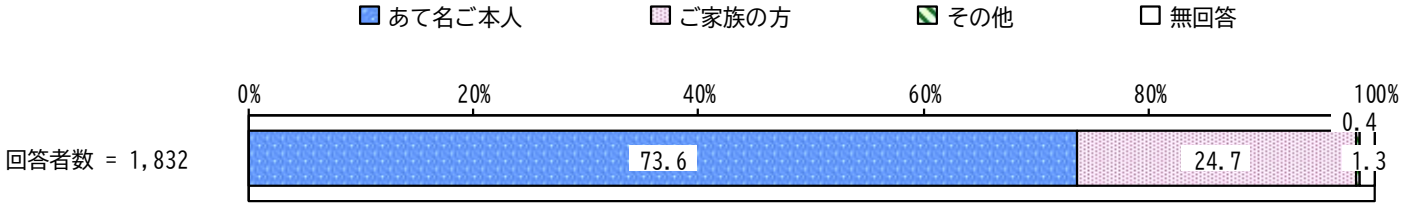
６　調査結果の表示方法

・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第２位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
・複数回答が可能な設問の場合、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回収数の合計と単純集計（全体）の有効回収数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組合せで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

Ⅱ　調査結果の概要

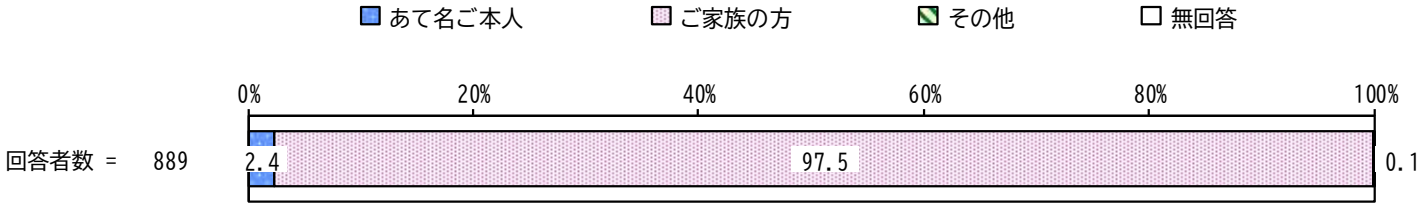
①回答者【在宅障害者、在宅障害児、施設入所者】

＜在宅障害者調査＞



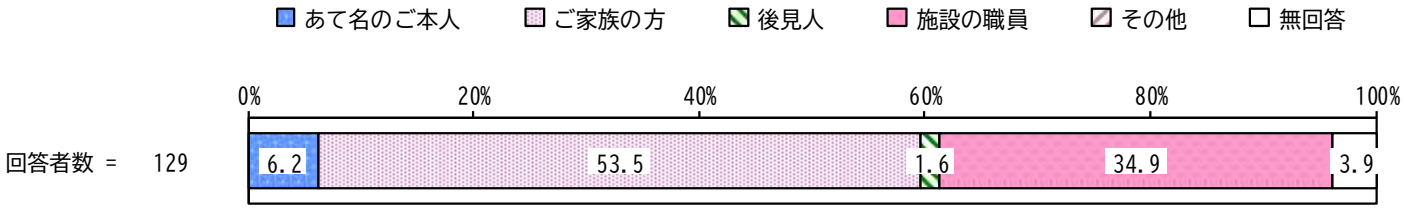
回答者は、「あて名ご本人」の割合が 73.6%、「ご家族の方」の割合が 24.7%となっています。

＜在宅障害児調査＞



回答者は、「あて名ご本人」の割合が 2.4%、「ご家族の方」の割合が 97.5%となっています。「その他」の回答はありませんでした。

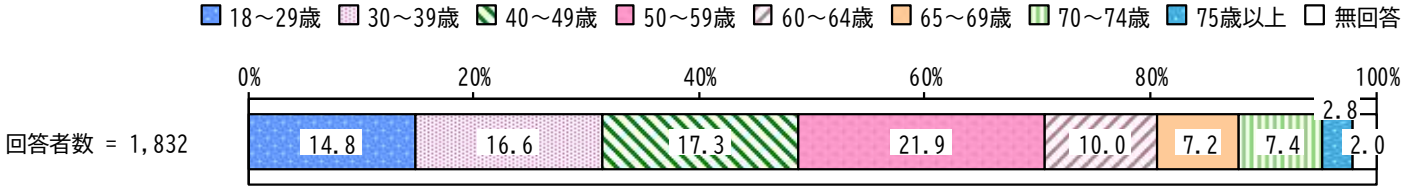
＜施設入所者＞



回答者は、「ご家族の方」の割合が 53.5%と最も高く、次いで「施設の職員」の割合が 34.9%と続いています。

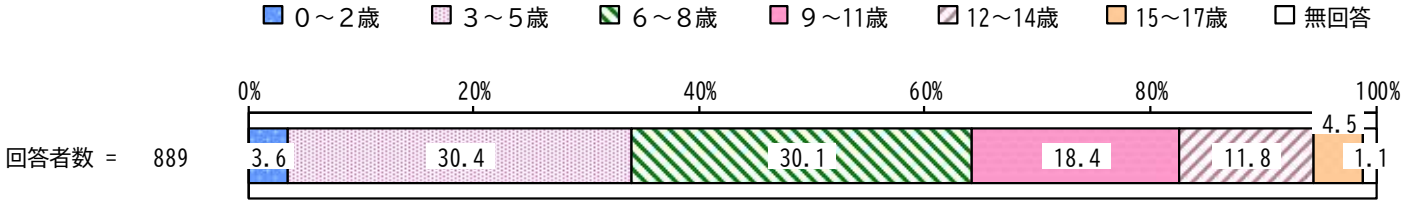
②年齢【在宅障害者、在宅障害児、施設入所者】

＜在宅障害者調査＞



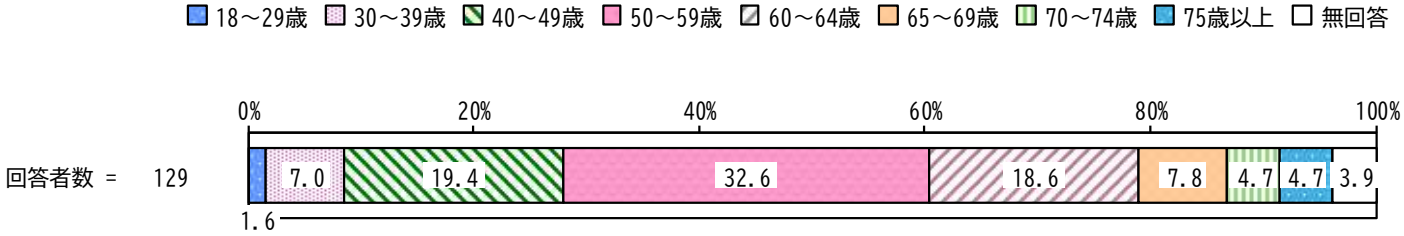
年齢は、「50～59 歳」の割合が 21.9%と最も高く、次いで「40～49 歳」の割合が 17.3%、「30～39 歳」の割合が 16.6%と続いています。

＜在宅障害児調査＞



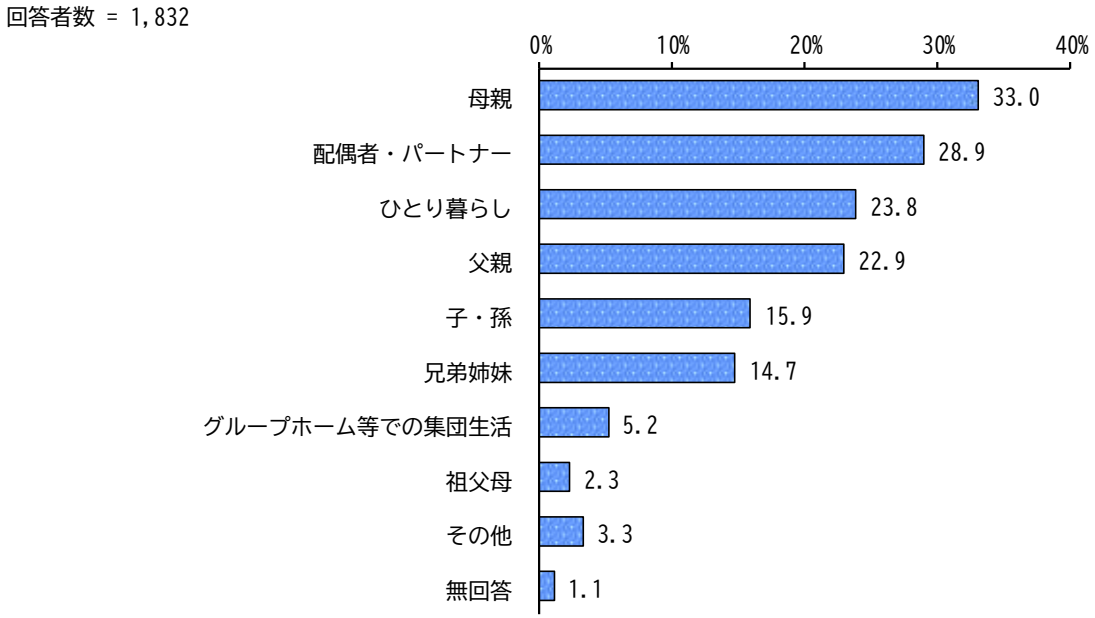
年齢は、「３～５歳」の割合が 30.4%と最も高く、次いで「６～８歳」の割合が 30.1%、「９～11 歳」の割合が 18.4%と続いています。

＜施設入所者＞



年齢は、「50～59 歳」の割合が 32.6%と最も高く、次いで「40～49 歳」の割合が 19.4%、「60～64 歳」の割合が 18.6%と続いています。

③同居家族【在宅障害者】



同居している家族は、「母親」の割合が 33.0%と最も高く、次いで「配偶者・パートナー」の割合が 28.9%、「ひとり暮らし」の割合が 23.8%と続いています。

▸クロス集計：障害種別

単位：%

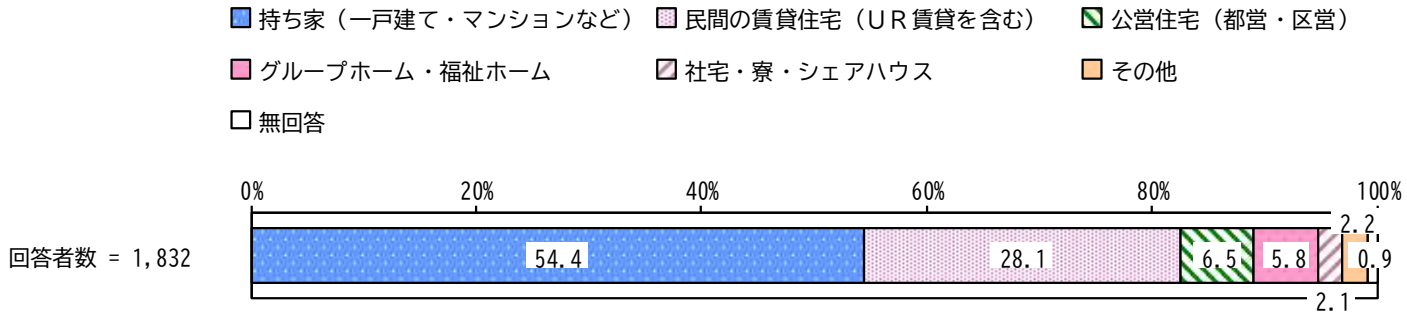
区分	回答者数（件）	父親	母親	配偶者・パートナー	子・孫	兄弟姉妹	祖父母	ひとり暮らし	グループホーム等での集団生活	その他	無回答
全　体	1,832	22.9	33.0	28.9	15.9	14.7	2.3	23.8	5.2	3.3	1.1
視覚障害	90	6.7	10.0	47.8	22.2	5.6	0.0	30.0	1.1	2.2	2.2
聴覚・平衡機能障害	59	13.6	16.9	40.7	33.9	8.5	3.4	23.7	1.7	3.4	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	39	15.4	35.9	30.8	15.4	25.6	5.1	20.5	2.6	7.7	0.0
肢体不自由	330	19.1	27.6	37.0	20.0	13.9	0.6	22.7	3.6	4.8	0.9
内部障害	219	8.2	16.4	48.9	25.6	8.2	0.5	27.4	0.0	1.8	1.4
知的障害	416	54.3	69.7	1.9	1.2	34.6	5.8	4.6	14.7	4.6	0.5
発達障害	446	46.2	57.4	11.2	6.5	25.1	5.4	16.8	7.4	4.0	0.7
精神障害	815	21.0	30.6	25.9	13.7	13.6	2.3	29.9	4.7	3.4	1.3
高次脳機能障害	74	18.9	25.7	33.8	21.6	13.5	0.0	21.6	4.1	9.5	1.4
難病・特定疾患	189	16.4	25.9	34.4	19.6	9.5	1.6	27.0	1.1	4.2	0.0
慢性疾患	249	12.0	20.9	39.0	20.1	11.6	0.8	28.5	2.8	1.6	1.2

障害種別にみると、音声・言語・そしゃく機能障害、知的障害、発達障害、精神障害では「母親」の割合が最も多く、特に知的障害では７割近くとなっており、「父親」の割合も５割を超えています。

それ以外の種別では「配偶者・パートナー」が最も多くなっています。

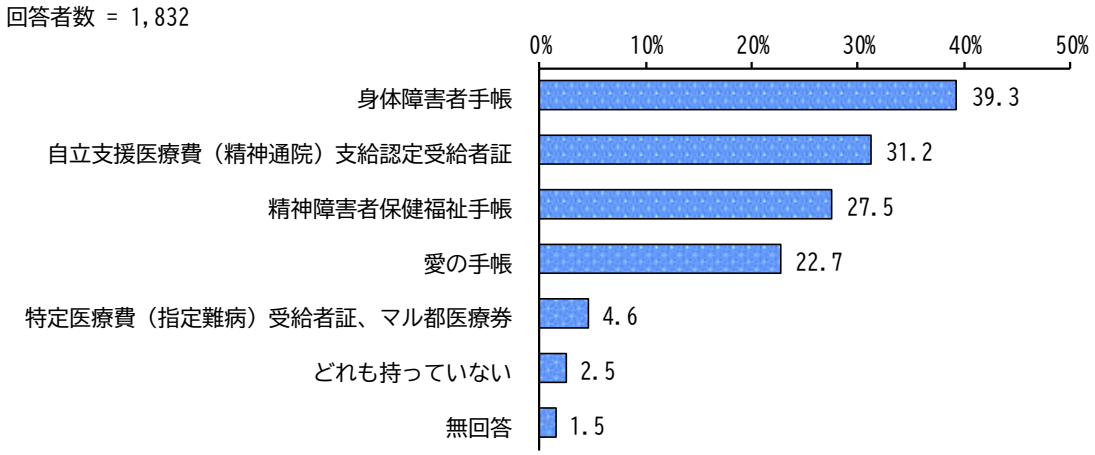
また、知的障害では「グループホーム等での集団生活」の割合が 14.7%と比較的多く、「ひとり暮らし」の割合は反対に、4.6%と他の種別より少なくなっています。

④住まい【在宅障害者】



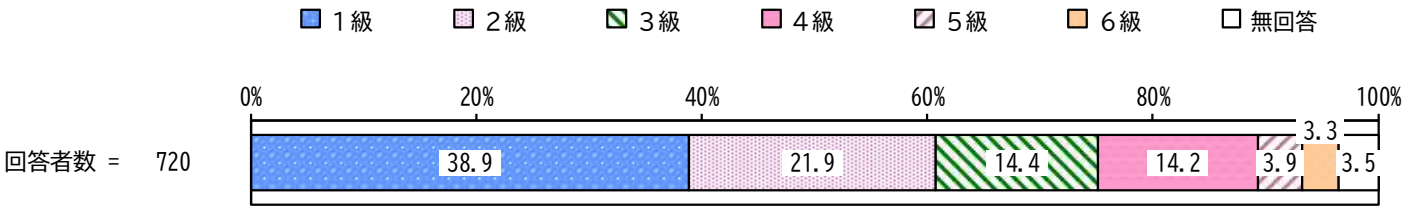
住まいは、「持ち家（一戸建て・マンションなど）」の割合が 54.4%と最も高く、次いで「民間の賃貸住宅（ＵＲ賃貸を含む）」の割合が 28.1%と続いています。

⑤手帳の種類【在宅障害者】



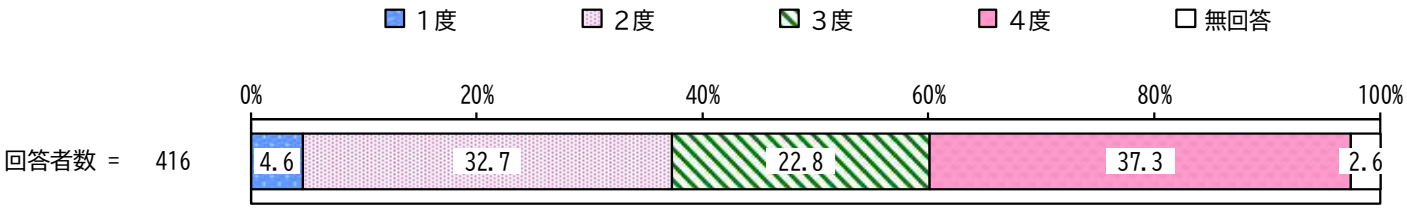
手帳の種類は、「身体障害者手帳」の割合が 39.3%と最も高く、次いで「自立支援医療費（精神通院）支給認定受給者証」の割合が 31.2%、「精神障害者保健福祉手帳」の割合が 27.5%と続いています。

⑥身体障害者手帳の等級【在宅障害者】



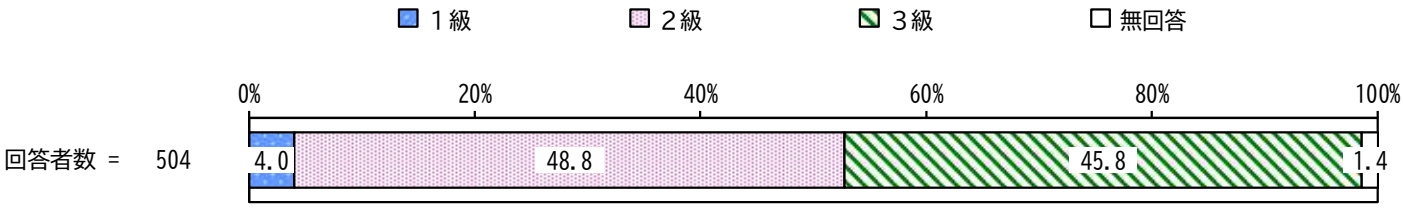
身体障害者手帳の等級は、「１級」の割合が 38.9%と最も高く、次いで「２級」の割合が 21.9%、「３級」の割合が 14.4%と続いています。

⑦愛の手帳の程度【在宅障害者】



愛の手帳の程度は、「４度」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「２度」の割合が 32.7%、「３度」の割合が 22.8%と続いています。

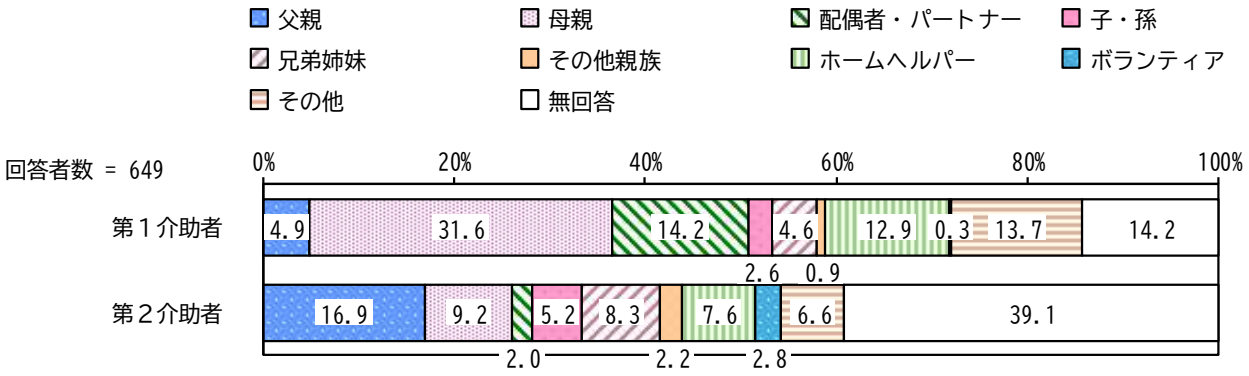
⑧精神障害者保健福祉手帳の等級【在宅障害者】



精神障害者保健福祉手帳の等級は、「２級」の割合が 48.8%、「３級」の割合が 45.8%、「１級」の割合が 4.0%となっています。

⑨主な介助者【在宅障害者、在宅障害児】

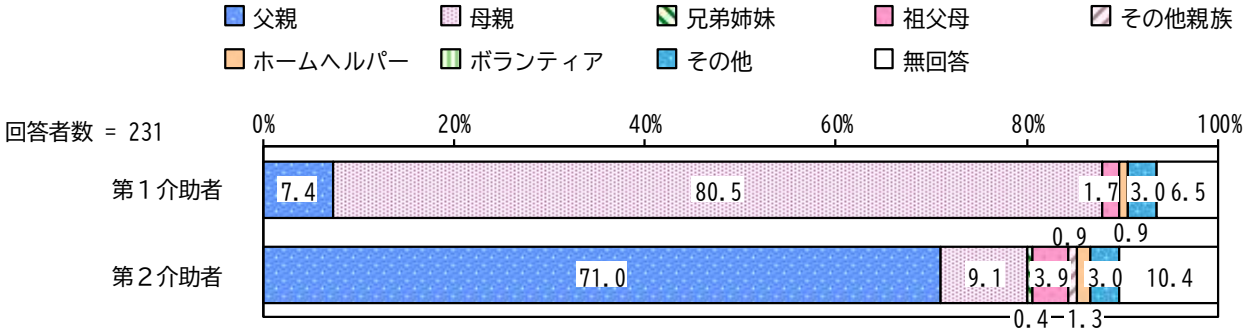
＜在宅障害者調査＞



主な第１介助者は、「母親」の割合が 31.6%と最も高く、次いで「配偶者・パートナー」の割合が 14.2%、「ホームヘルパー」の割合が 12.9%と続いています。

主な第２介助者は、「父親」の割合が 16.9%と最も高く、次いで「母親」の割合が 9.2%、「兄弟姉妹」が 8.3%と続いています。

＜在宅障害児調査＞

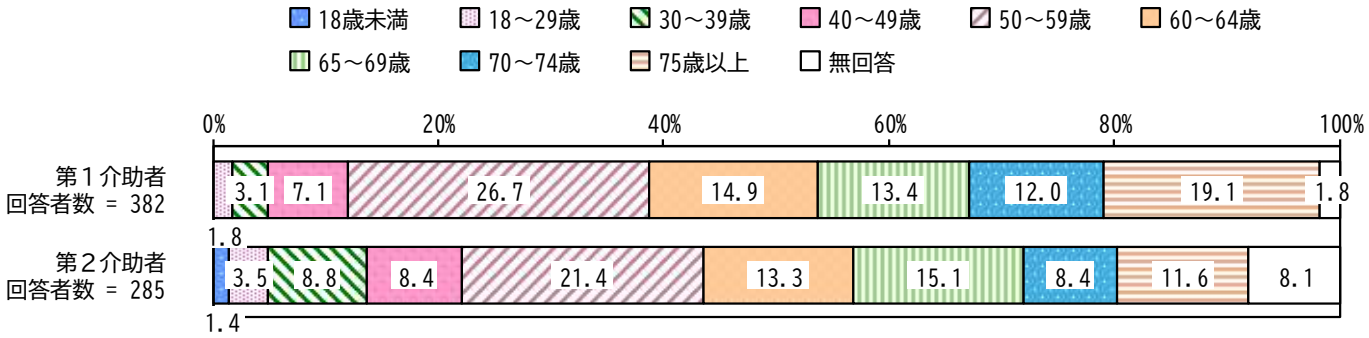


主な第１介助者は、「母親」の割合が 80.5%と最も高く、次いで「父親」の割合が 7.4%、「その他」の割合が 3.0%と続いています。また、「兄弟姉妹」、「その他親族」、「ボランティア」の回答はありませんでした。

主な第２介助者は、「父親」の割合が 71.0%と最も高く、次いで「母親」の割合が 9.1%、「祖父母」の割合が 3.9%と続いています。また、「ボランティア」の回答はありませんでした。

⑩主な介助者の年齢【在宅障害者、在宅障害児】

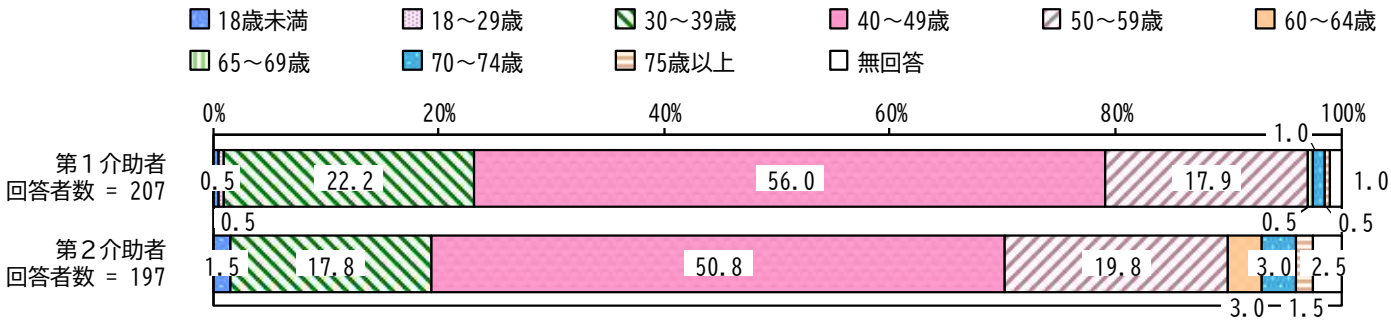
＜在宅障害者調査＞



主な第１介助者の年齢は、「50～59 歳」の割合が 26.7%と最も高く、次いで「75 歳以上」の割合が 19.1%、「60～64 歳」の割合が 14.9%と続いています。65 歳以上の割合が全体の４割台半ば近くを占めています。また、「18 歳未満」の回答はありませんでした。

主な第２介助者の年齢は、「50～59 歳」の割合が 21.4%と最も高く、次いで「65～69 歳」の割合が 15.1%、「60～64 歳」の割合が 13.3%と続いています。

＜在宅障害児調査＞



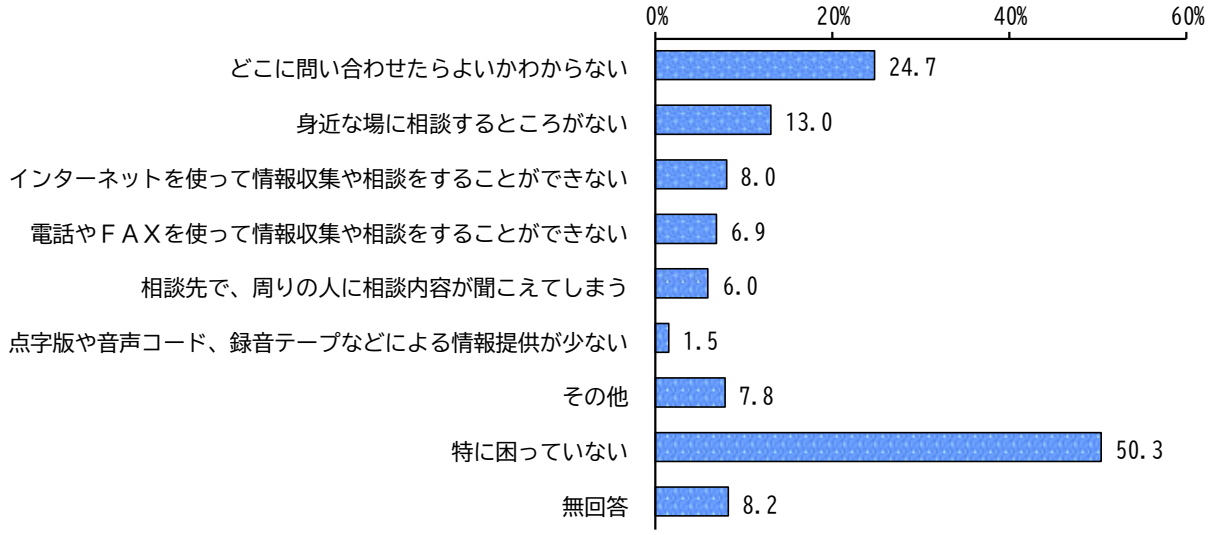
主な第１介助者の年齢は、「40～49 歳」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「30～39 歳」の割合が 22.2%、「50～59 歳」の割合が 17.9%と続いています。また、「60～64 歳」の回答はありませんでした。

主な第２介助者の年齢は、「40～49 歳」の割合が 50.8%と最も高く、次いで「50～59 歳」の割合が 19.8%、「30～39 歳」の割合が 17.8%と続いています。

⑪相談時の困りごと【在宅障害者、在宅障害児】

＜在宅障害者調査＞

回答者数 = 1,832

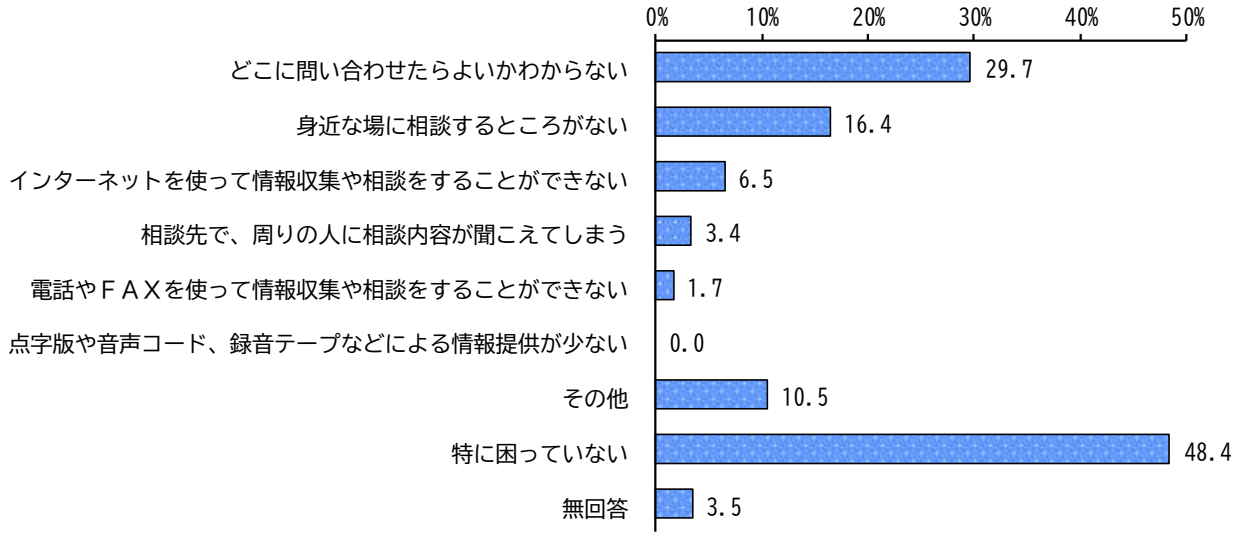


悩み事等を相談する時の困りごとは、「どこに問い合わせたらよいかわからない」の割合が 24.7%と最も高く、次いで「身近な場に相談するところがない」の割合が 13.0%と続いています。

また、「特に困っていない」の割合は 50.3%となっています。

＜在宅障害児調査＞

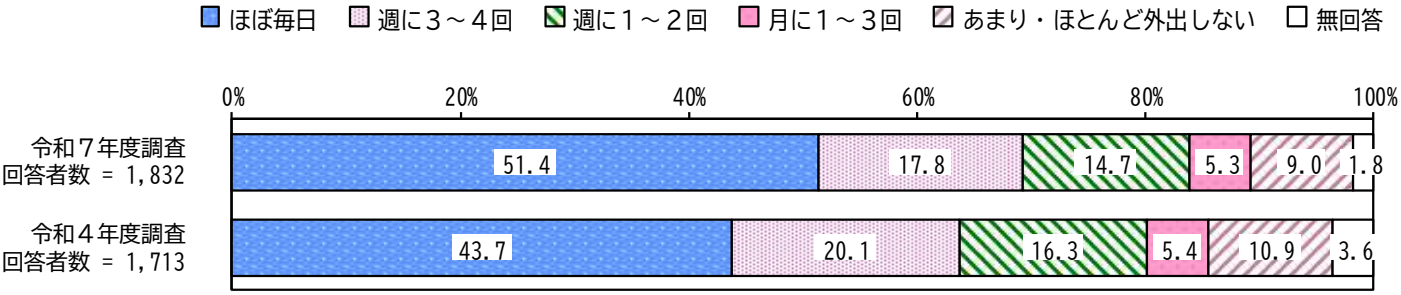
回答者数 = 889



18 歳未満では、「どこに問い合わせたらよいかわからない」の割合が 29.7%と最も高く、次いで「身近な場に相談するところがない」の割合が 16.4%と続いています。

また、「特に困っていない」の割合は 48.4%となっています。

⑫外出頻度【在宅障害者】



外出頻度は、「ほぼ毎日」の割合が 51.4%と最も高く、次いで「週に３～４回」の割合が 17.8%となっており、両者を合わせた“週３回以上”の割合は、７割近くを占めています。一方、「月に１～３回」の割合が 5.3%、「あまり・ほとんど外出しない」の割合が 9.0%となっており、両者を合わせた“月３回以下”の割合は、１割台半ばとなっています。令和４年度調査と比較すると、「ほぼ毎日」の割合が 7.7 ポイント増加しています。

▸クロス集計：障害種別

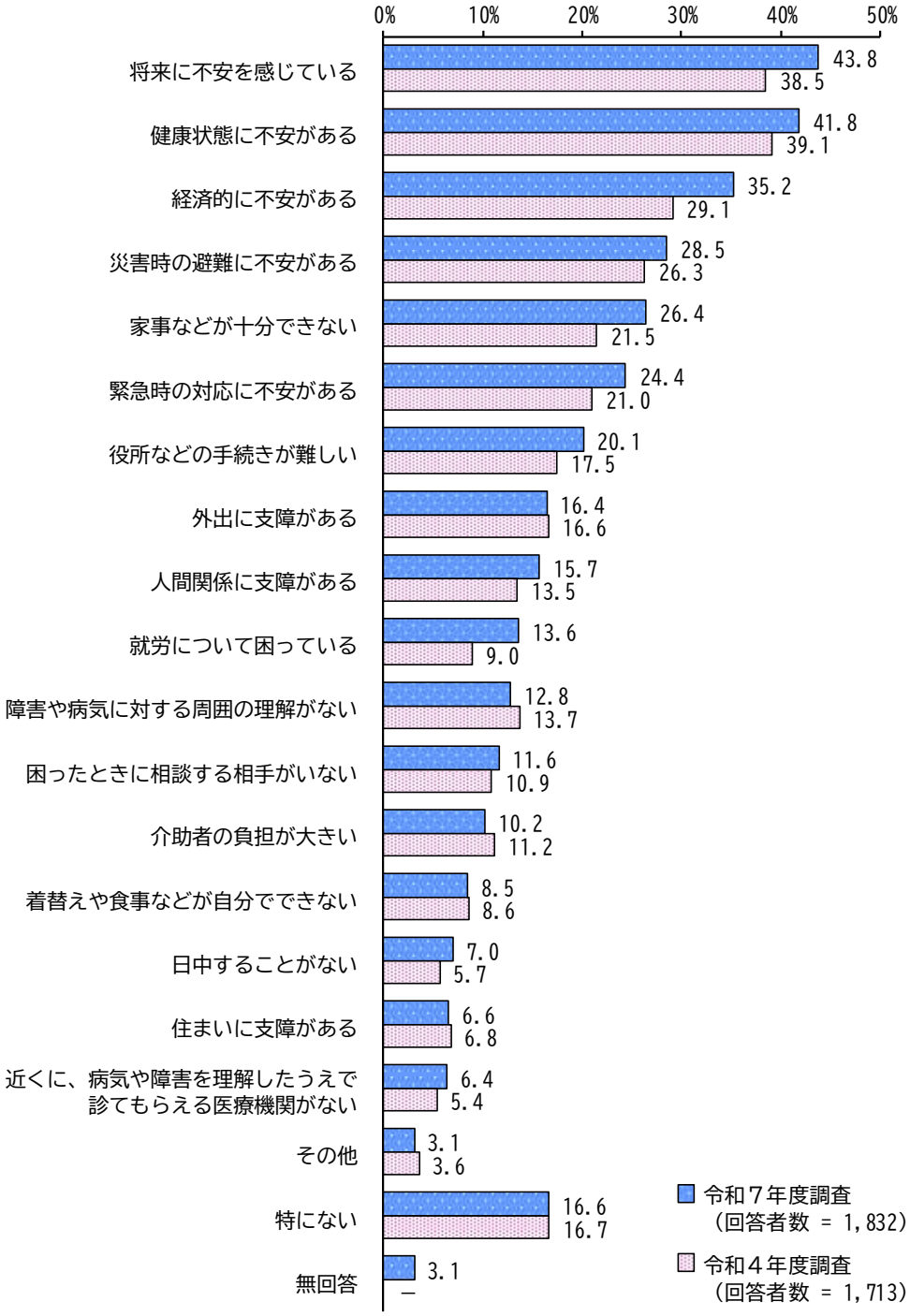
単位：％

区分	回答者数（件）	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～3回	あまり・ほとんど外出しない	無回答
全　体	1,832	51.4	17.8	14.7	5.3	9.0	1.8
視覚障害	90	34.4	22.2	25.6	11.1	5.6	1.1
聴覚・平衡機能障害	59	42.4	23.7	13.6	11.9	6.8	1.7
音声・言語・そしゃく機能障害	39	41.0	12.8	7.7	10.3	28.2	0.0
肢体不自由	330	33.3	17.6	18.8	7.6	19.7	3.0
内部障害	219	53.0	21.0	12.8	4.1	8.2	0.9
知的障害	416	54.1	11.8	18.8	4.8	8.4	2.2
発達障害	446	57.2	13.9	15.7	4.5	6.5	2.2
精神障害	815	56.9	19.0	12.5	3.9	6.6	1.0
高次脳機能障害	74	41.9	13.5	16.2	4.1	21.6	2.7
難病・特定疾患	189	34.4	27.5	14.8	8.5	14.8	0.0
慢性疾患	249	51.0	19.3	12.0	7.6	8.8	1.2

障害種別にみると、すべての種別で「ほぼ毎日」の割合が最も高く、「週に３～４回」の割合を合わせた“週３回以上”の割合は５割を超えています。

「月に１～３回」と「あまり・ほとんど外出しない」を合わせた“月３回以下”の割合は、音声・言語・そしゃく機能障害で４割近く、肢体不自由、高次脳機能障害、難病・特定疾患で２割を超えて比較的高くなっています。

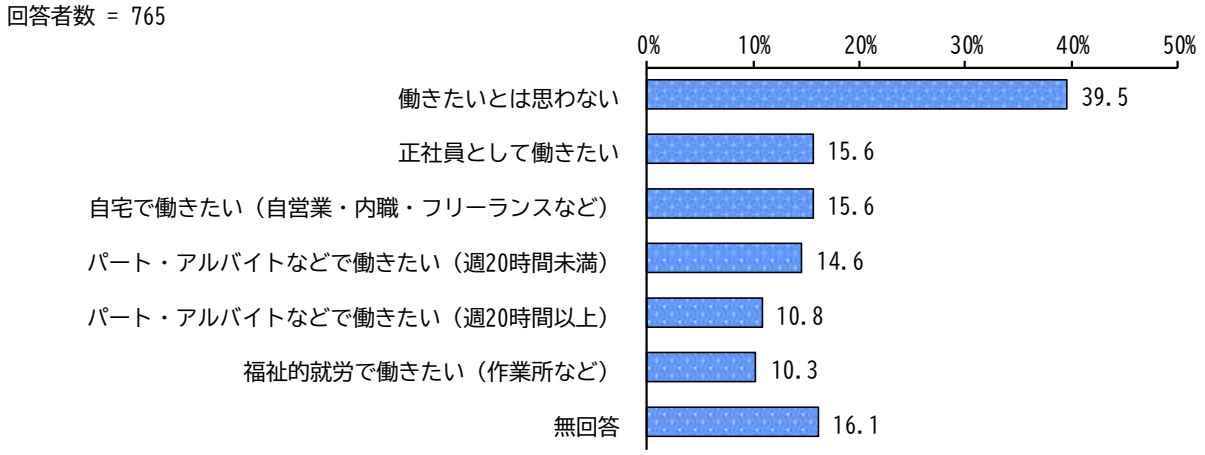
⑬日常生活での困りごと等【在宅障害者】



日常生活での困りごとについては、「将来に不安を感じている」の割合が 43.8%と最も高く、次いで「健康状態に不安がある」の割合が 41.8%、「経済的に不安がある」の割合が 35.2%と続いています。

令和４年度調査と比較すると、「経済的に不安がある」の割合が 6.1 ポイント、「将来に不安を感じている」の割合が 5.3 ポイントと、それぞれ５ポイント以上増加しています。

⑭今後の就労意向【在宅障害者】



現在働いていない方の今後の就労意向は、「働きたいとは思わない」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「正社員として働きたい」、「自宅で働きたい（自営業・内職・フリーランスなど）」の割合が 15.6%と続いています。

▸クロス集計：年齢別／障害種別

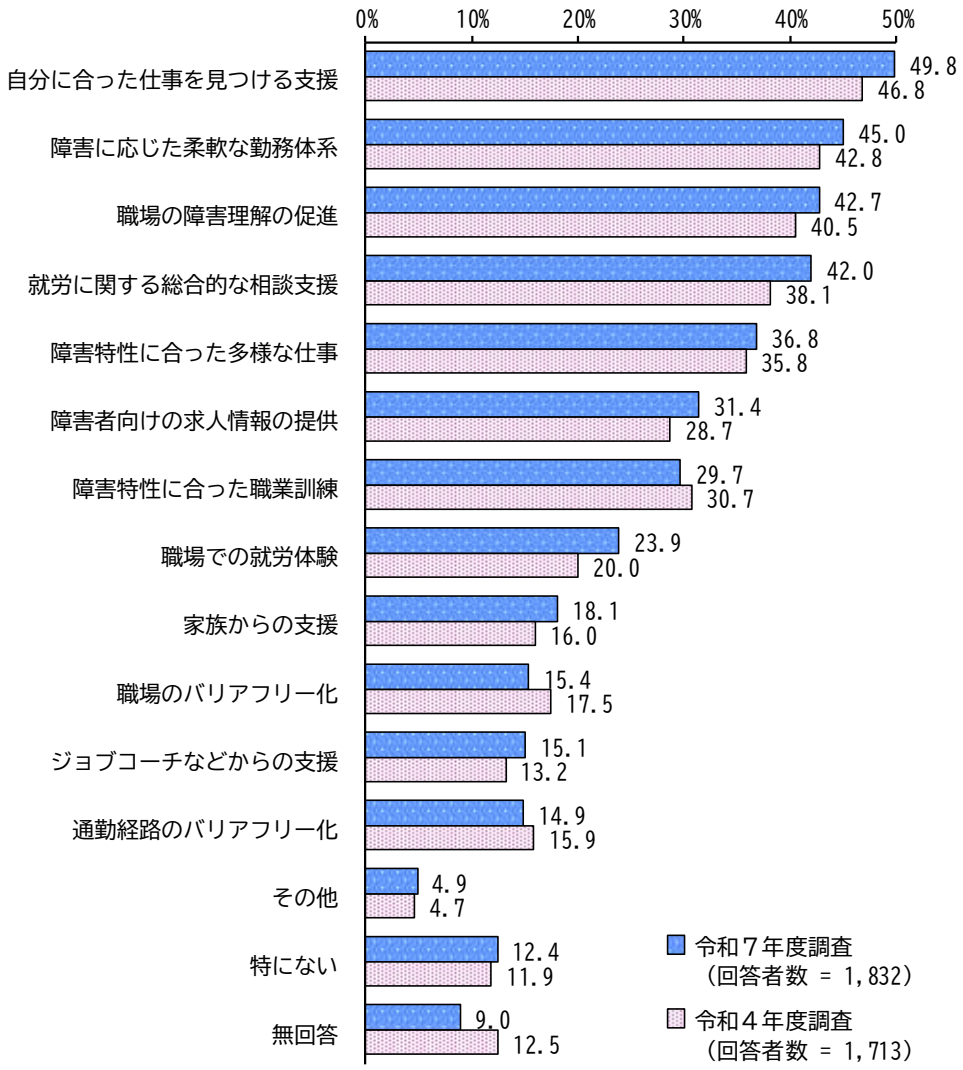
単位：%

区分		回答者数（件）	正社員として働きたい	パート・アルバイトなどで働きたい（週20時間以上）	パート・アルバイトなどで働きたい（週20時間未満）	自宅で働きたい（自営業・内職・フリーランスなど）	福祉的就労で働きたい（作業所など）	働きたいとは思わない	無回答
全　体		765	15.6	10.8	14.6	15.6	10.3	39.5	16.1
年齢別	18～39歳	186	30.1	12.9	16.1	18.3	18.3	24.7	12.4
	40～64歳	354	16.7	14.1	17.2	18.4	10.2	34.2	16.9
	65～74歳	174	0.6	4.0	10.9	9.8	3.4	59.8	16.7
	75歳以上	37	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	70.3	27.0
障害種別	視覚障害	55	5.5	1.8	10.9	7.3	5.5	61.8	18.2
	聴覚・平衡機能障害	23	8.7	0.0	4.3	4.3	4.3	60.9	17.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	0.0	4.8	9.5	9.5	9.5	52.4	23.8
	肢体不自由	205	7.3	6.8	9.3	10.7	6.8	45.9	23.9
	内部障害	83	7.2	6.0	9.6	7.2	3.6	55.4	18.1
	知的障害	153	5.9	3.3	5.9	4.6	22.9	46.4	22.2
	発達障害	149	25.5	10.1	16.1	18.8	20.1	27.5	13.4
	精神障害	312	26.3	17.0	21.5	23.7	11.5	26.0	10.9
	高次脳機能障害	44	13.6	6.8	13.6	20.5	6.8	40.9	20.5
	難病・特定疾患	100	6.0	4.0	13.0	9.0	5.0	51.0	18.0
	慢性疾患	117	9.4	6.0	6.0	12.8	7.7	49.6	19.7

年齢別にみると、18～39 歳では、「正社員として働きたい」の割合が３割を超えて最も高くなっています。また 40～64 歳では、「正社員として働きたい」、「パート・アルバイトなどで働きたい（20 時間以上）」、「パート・アルバイトなどで働きたい（20 時間未満）」、「自宅で働きたい（自営業・内職・フリーランスなど）」、がそれぞれ１割台半ばと、多様な働き方を求めていることがうかがえます。

障害種別にみると、発達障害と精神障害で「正社員として働きたい」の割合が２割台半ばを超え、他の種別より高くなっています。また、知的障害と発達障害では「福祉的就労で働きたい（作業所など）」の割合が２割と他の種別と比較し高くなっています。

⑮障害のある人が働くために必要なこと【在宅障害者】

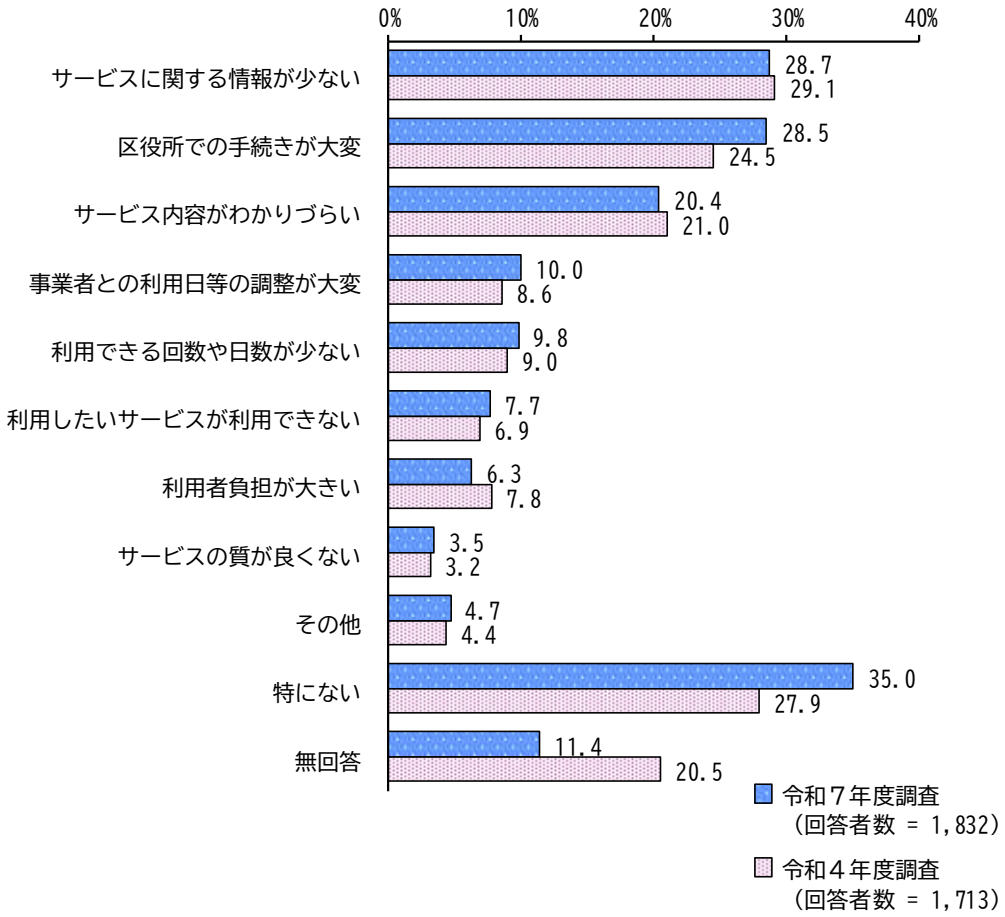


障害のある人が働くために必要なことについては、「自分に合った仕事を見つける支援」の割合が49.8%と最も高く、次いで「障害に応じた柔軟な勤務体系」の割合が45.0%、「職場の障害理解の促進」の割合が42.7%と続いています。

令和４年度調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「就労に関する総合的な相談支援」の割合が3.9ポイント、「自分にあった仕事を見つける支援」の割合が3.0ポイントと、自身や障害特性に適合する就労支援の項目の割合が増加傾向にあります。

⑯サービス利用の際の困りごと【在宅障害者、在宅障害児】

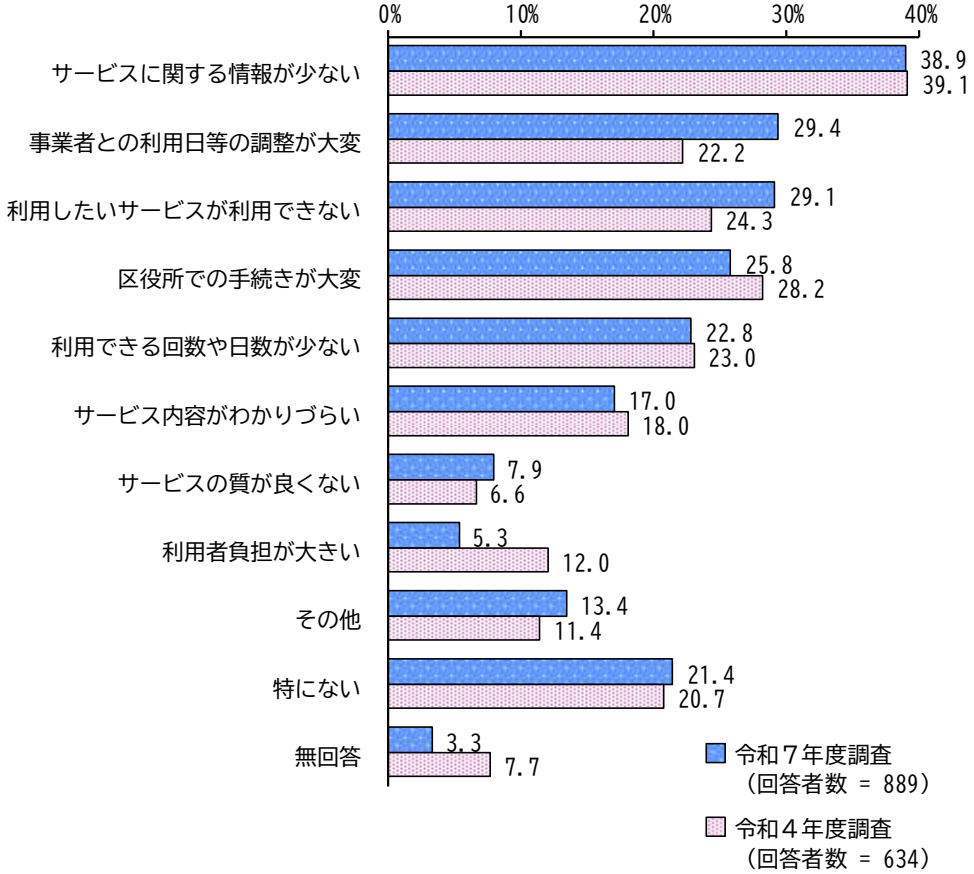
＜在宅障害者調査＞



サービス利用の際の困りごとについては、「サービスに関する情報が少ない」の割合が 28.7%と最も高く、次いで「区役所での手続きが大変」の割合が 28.5%となっています。また、「特にない」の割合は 35.0%となっています。

令和４年度調査と比較すると、「区役所での手続きが大変」の割合が 4.0 ポイント増加し、「サービスに関する情報が少ない」、「サービスの内容がわかりづらい」の割合は、減少傾向にあるもののそれぞれ２割を超えています。また、「特にない」の割合は、7.1 ポイントと大きく増加しています。

＜在宅障害児調査＞

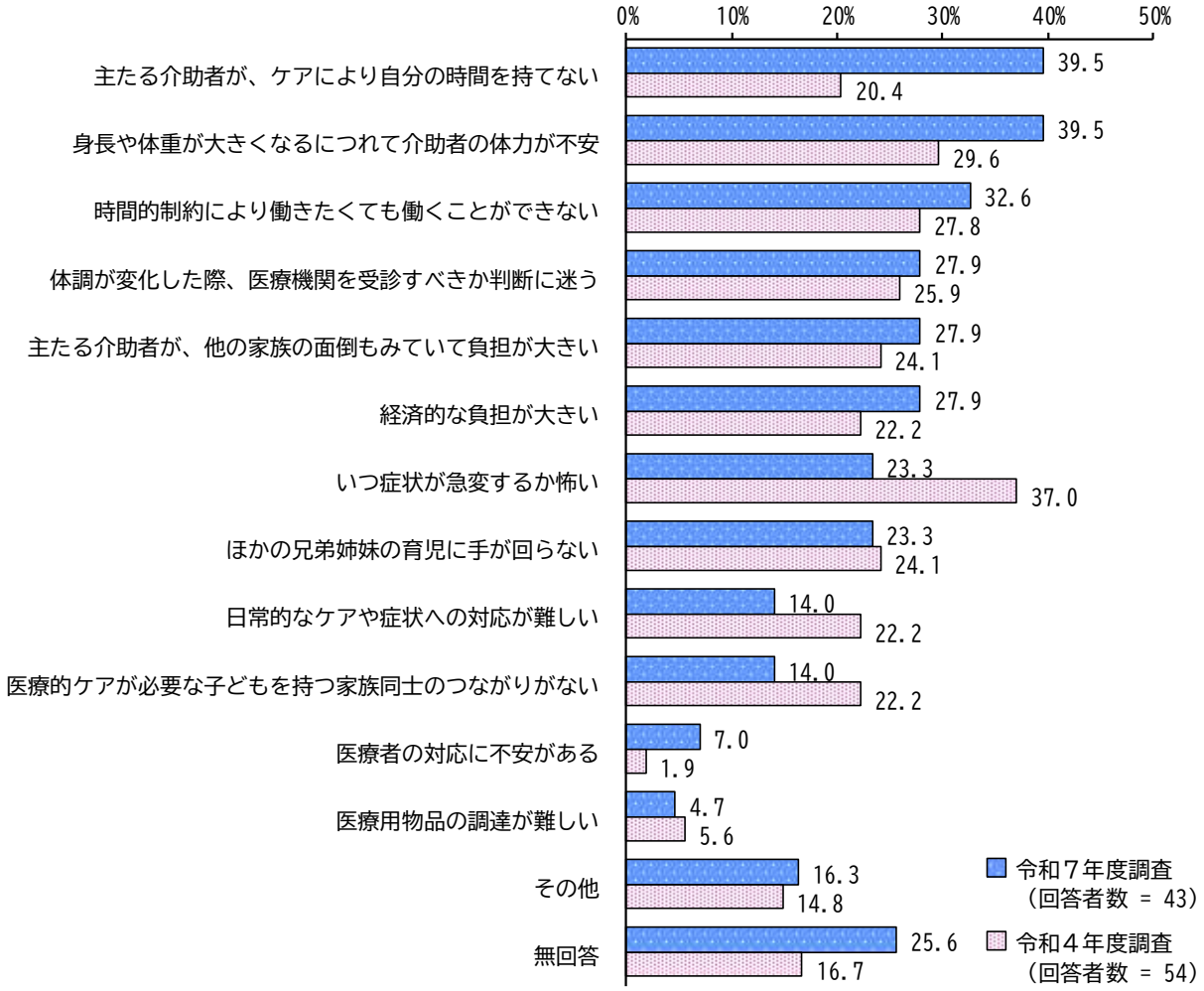


18 歳未満では、「サービスに関する情報が少ない」の割合が 38.9%と最も高く、次いで「事業者との利用日等の調整が大変」の割合が 29.4%、「利用したいサービスが利用できない」の割合が 29.1%と続いています。また、「特にない」の割合は 21.4%となっています。

令和４年度調査と比較すると、「事業者との利用日等の調整が大変」の割合が 7.2 ポイント、「利用したいサービスが利用できない」の割合が 4.8 ポイントそれぞれ増加しています。

一方、「利用者負担が大きい」の割合が 6.7 ポイント減少しており、令和７年度からの障害児通所支援等利用者負担無償化施策の影響が大きいものと考えられます。

⑰医療的ケアについての困りごと【在宅障害児】

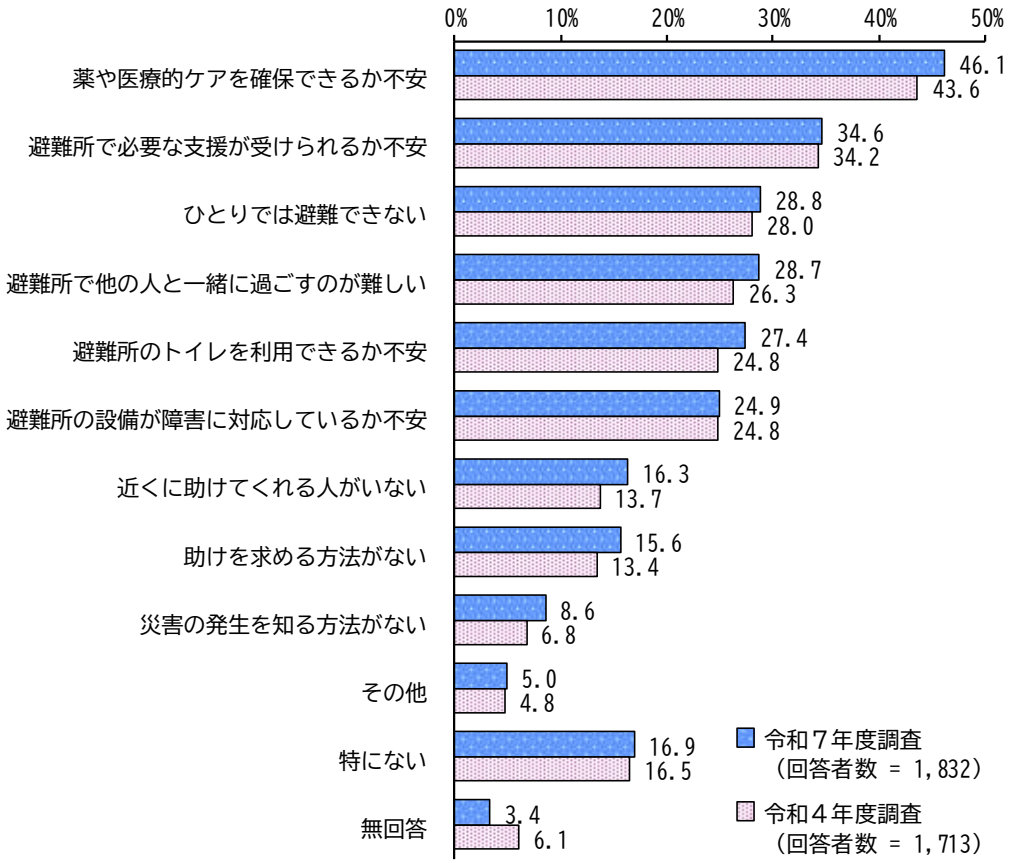


医療的ケアについての困りごとは、「主たる介助者が、ケアにより自分の時間を持てない」、「身長や体重が大きくなるにつれて介助者の体力が不安」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「時間的制約により働きたくても働くことができない」の割合が 32.6%と続いています。

令和４年度調査と比較すると、「いつ症状が急変するか怖い」の割合が 13.7 ポイント、「日常的なケアや症状への対応が難しい」の割合が 8.2 ポイントと大きく減少した一方、「主たる介助者が、ケアにより自分の時間を持てない」の割合が 19.1 ポイント、「身長や体重が大きくなるにつれて介助者の体力が不安」の割合が 9.9 ポイントそれぞれ大きく増加しており、介助者の負担に関する回答が多く寄せられています。

⑱災害発生時での困りごと【在宅障害者、在宅障害児】

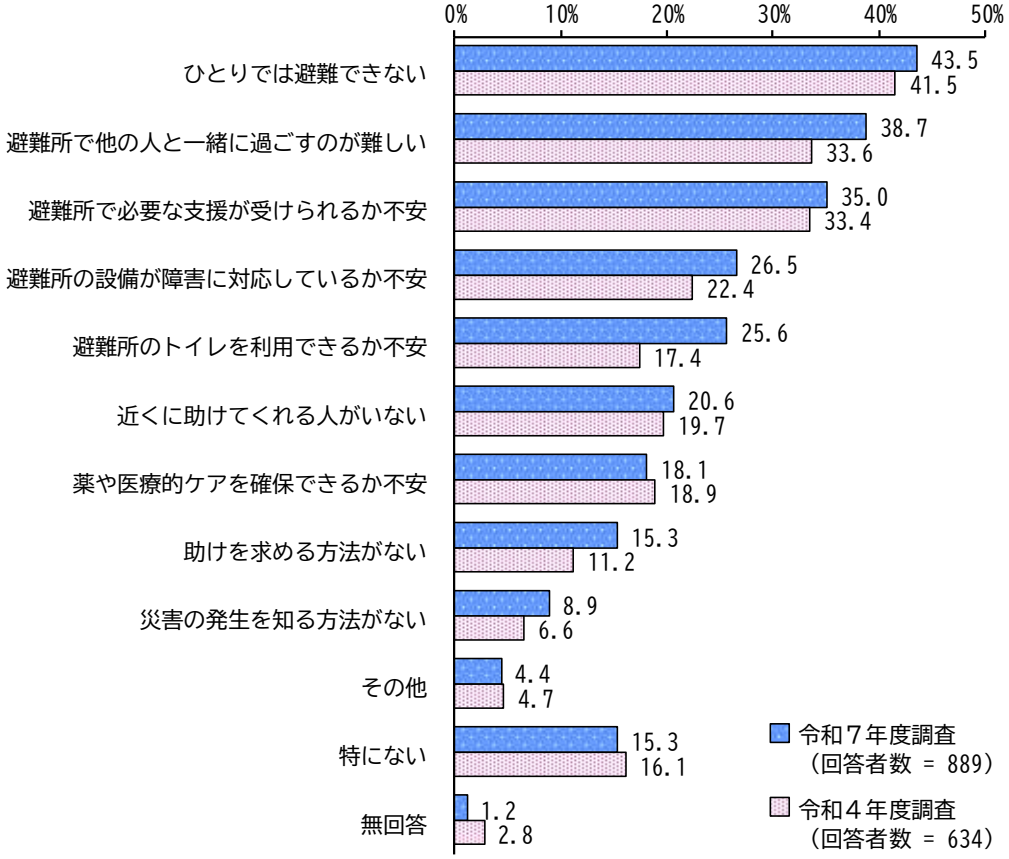
＜在宅障害者調査＞



災害発生時での困りごとは、「薬や医療的ケアを確保できるか不安」の割合が 46.1%と最も高く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」の割合が 34.6%、「ひとりでは避難できない」の割合が 28.8%と続いています。

令和４年度調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「無回答」を除く 11 項目の割合がそれぞれ増加傾向にあります。

＜在宅障害児調査＞



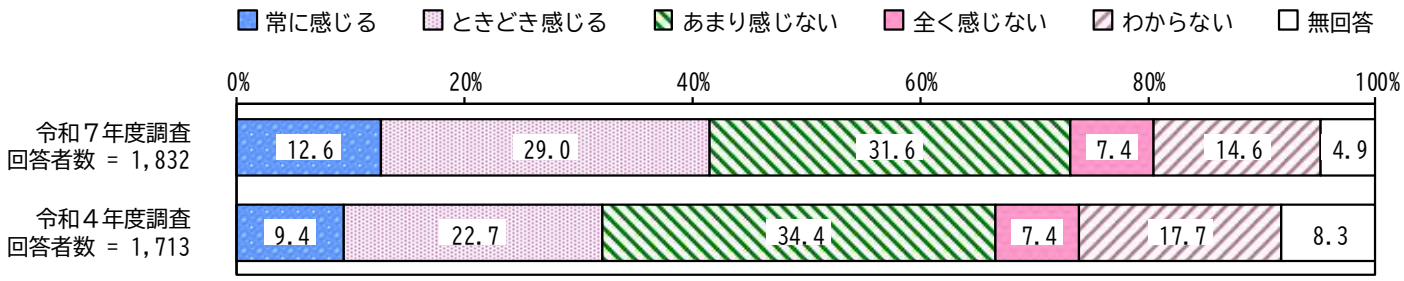
18 歳未満では、「ひとりでは避難できない」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」の割合が 38.7%、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」の割合が 35.0%と続いています。

令和４年度調査と比較すると、「避難所のトイレを利用できるか不安」の割合が 8.2 ポイント、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」の割合が 5.1 ポイントそれぞれ増加しています。

また、「その他」・「特にない」・「無回答」を除く９項目中８項目で、令和４年度の数値を上回っています。

⑲障害に対する差別や偏見等の有無【在宅障害者、在宅障害児】

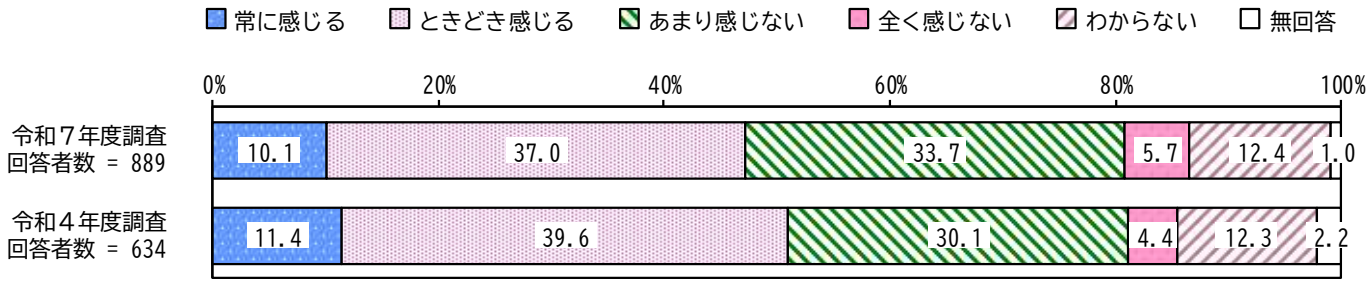
＜在宅障害者調査＞



障害に対する差別や偏見等について、「常に感じる」「ときどき感じる」を合わせた“感じる”の割合が 41.6%、「あまり感じない」「全く感じない」を合わせた“感じない”の割合が 39.0%となっています。

令和４年度調査と比較すると、“感じる”の割合が 9.5 ポイント増加しており、“感じない”の割合が 2.8 ポイント減少しています。

＜在宅障害児調査＞

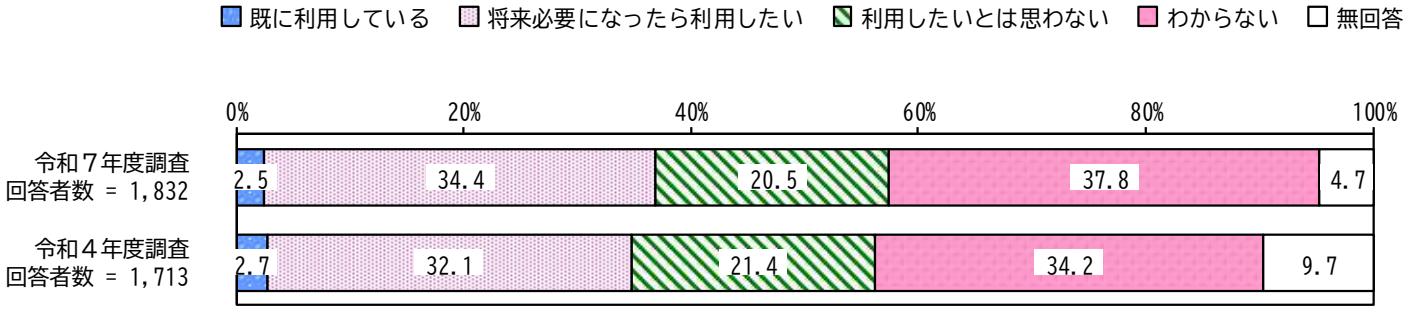


18 歳未満では、「常に感じる」「ときどき感じる」を合わせた“感じる”の割合が 47.1%、「あまり感じない」「全く感じない」を合わせた“感じない”の割合が 39.4%となっています。

令和４年度調査と比較すると、“感じる”の割合が 3.9 ポイント減少しており、“感じない”の割合が 4.9 ポイント増加しています。

⑳成年後見制度の利用意向【在宅障害者、施設入所者】

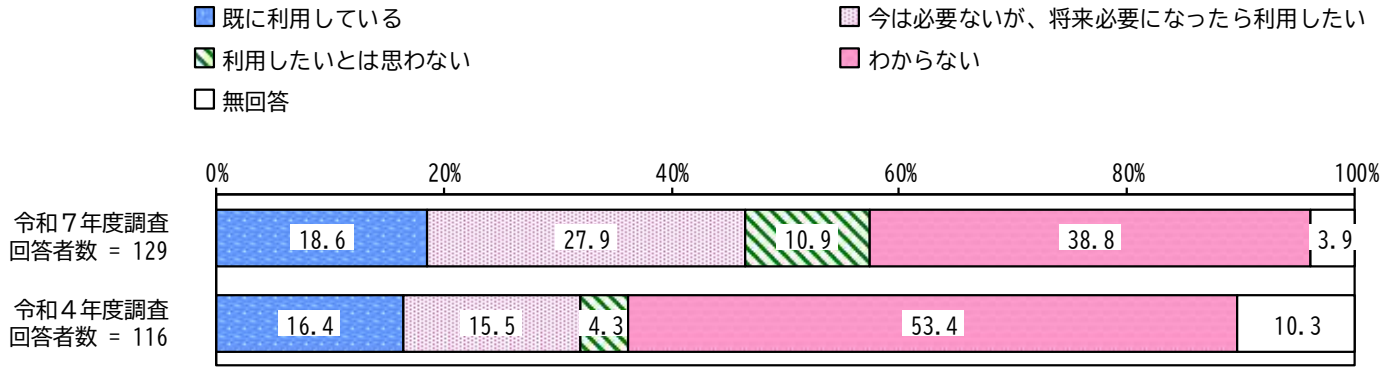
＜在宅障害者調査＞



「既に利用している」の割合が 2.5%、「将来必要になったら利用したい」の割合が 34.4%、「利用したいとは思わない」の割合が 20.5%と続いています。

令和４年度調査と比較すると、「既に利用している」、「将来必要になったら利用したい」の割合に大きな変化はありませんが、「わからない」の割合が 3.6 ポイント増加しています。

＜施設入所者調査＞

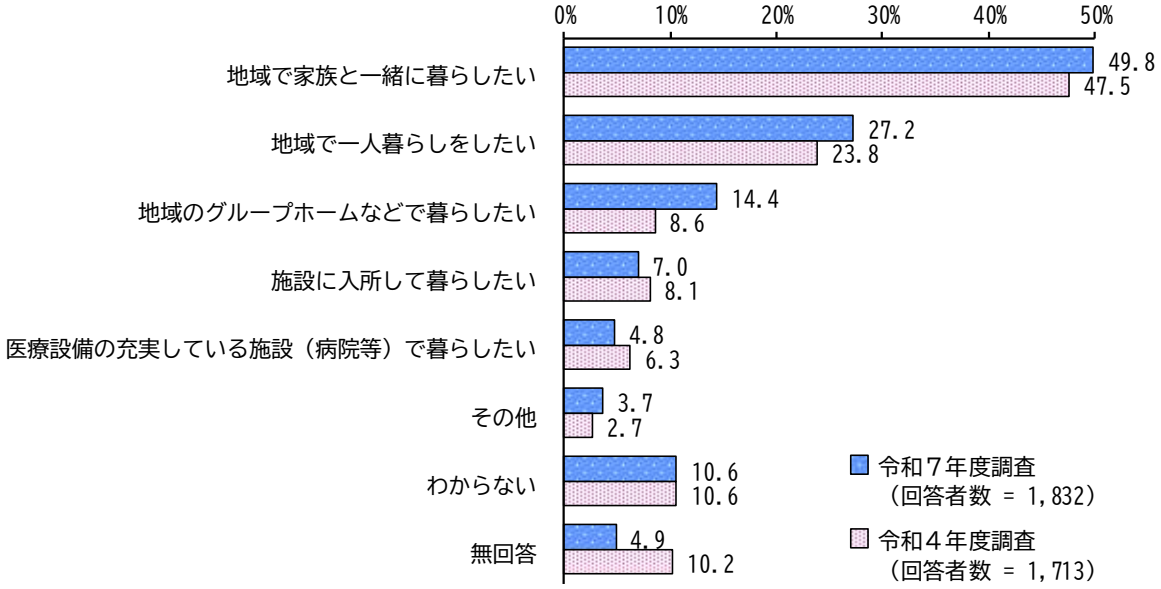


「既に利用している」の割合が 18.6%、「今は必要ないが、将来必要になったら利用したい」の割合が 27.9%、「利用したいとは思わない」の割合が 10.9%と続いています。

令和４年度調査と比較すると、「今は必要ないが、将来必要になったら利用したい」の割合が 12.4 ポイント、「利用したいとは思わない」の割合が 6.6 ポイント、それぞれ増加しています。

㉑希望する将来の暮らし方【在宅障害者、在宅障害児、施設入所者】

＜在宅障害者調査＞



希望する将来（５年～10 年後）の暮らし方について、「地域で家族と一緒に暮らしたい」の割合が 49.8%と最も高く、次いで「地域で一人暮らしをしたい」の割合が 27.2%、「地域のグループホームなどで暮らしたい」の割合が 14.4%と続いています。

令和４年度調査と比較すると、「地域のグループホームなどで暮らしたい」の割合が 5.8 ポイント、「地域で一人暮らしをしたい」の割合が 3.4 ポイント増加しています。

▸クロス集計：年齢別／障害種別

単位：％

区分		回答者数（件）	地域で一人暮らしをしたい	地域で家族と一緒に暮らしたい	地域のグループホームなどで暮らしたい	施設に入所して暮らしたい	医療設備の充実している施設（病院等）で暮らしたい	その他	わからない	無回答
全　体		1,832	27.2	49.8	14.4	7.0	4.8	3.7	10.6	4.9
年齢別	18～39歳	575	29.9	53.7	19.8	6.6	1.6	3.5	9.2	2.1
	40～64歳	901	28.1	48.9	12.3	6.9	4.7	4.1	11.3	4.7
	65～74歳	267	18.0	50.2	9.7	8.6	10.1	2.6	10.5	8.6
	75歳以上	52	23.1	44.2	11.5	9.6	15.4	0.0	5.8	15.4
障害種別	視覚障害	90	24.4	52.2	12.2	6.7	10.0	1.1	8.9	10.0
	聴覚・平衡機能障害	59	28.8	52.5	11.9	6.8	8.5	0.0	6.8	5.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	39	17.9	46.2	20.5	12.8	10.3	5.1	10.3	10.3
	肢体不自由	330	20.6	50.0	13.9	11.5	8.2	4.2	8.8	8.8
	内部障害	219	25.1	59.8	7.3	3.7	7.3	1.8	9.1	4.1
	知的障害	416	12.3	48.1	35.1	15.1	3.8	5.5	10.3	5.0
	発達障害	446	28.3	48.4	24.9	8.5	3.1	5.8	9.6	3.6
	精神障害	815	36.8	46.7	11.9	4.2	3.6	3.9	11.5	2.5
	高次脳機能障害	74	14.9	50.0	9.5	10.8	9.5	2.7	10.8	9.5
	難病・特定疾患	189	29.1	51.9	12.2	10.1	9.0	3.7	6.3	3.7
	慢性疾患	249	25.3	48.6	8.4	4.8	6.4	2.8	12.4	5.6

年齢別にみると、すべての年齢で「地域で家族と一緒に暮らしたい」の割合が４割を超えて最も高くなっています。また、65～74 歳を除いた年齢では、「地域で一人暮らしをしたい」の割合が２割を超えています。

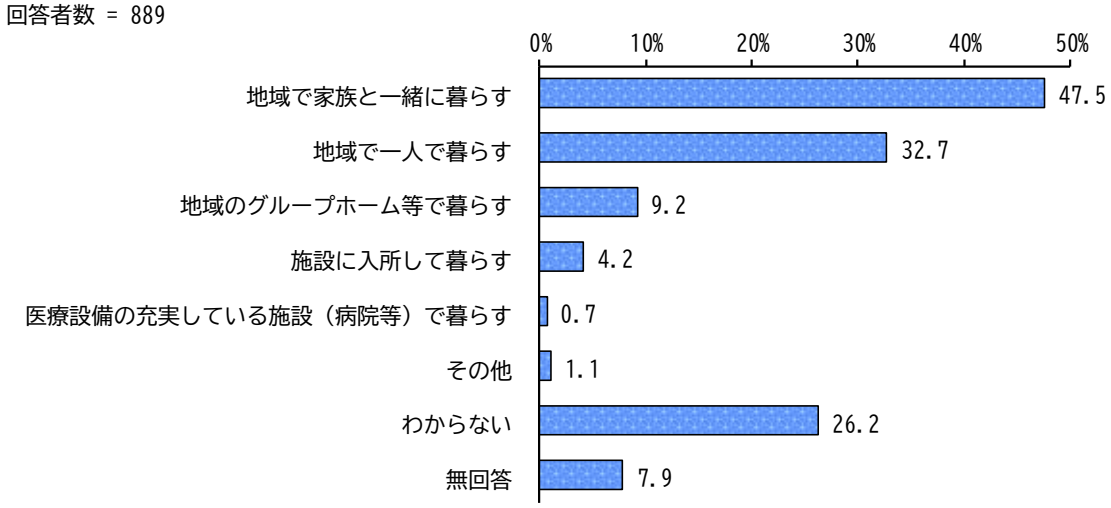
18～39 歳では、「地域のグループホームなどで暮らしたい」の割合が約２割と、他の年齢より高くなっています。

障害種別にみると、「地域で家族と一緒に暮らしたい」の割合はすべての種別で４割台半ばを超えて最も高くなっています。また、「地域で一人暮らしをしたい」の割合は、すべての種別で１割を超えており、精神障害で 36.8%と３割を超えて他の種別より高くなっています。

知的障害では、「地域のグループホームなどで暮らしたい」の割合が３割を超えて、他の種別より高くなっています。

＜在宅障害児調査＞

（１）お子様



お子様本人の希望では、「地域で家族と一緒に暮らす」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「地域で一人で暮らす」の割合が 32.7%と続いています。なお、18 歳未満の調査では本人の希望把握が困難な場合が多いため、「わからない」の割合が２割台半ばと高くなっています。

▸クロス集計：年齢別／障害種別

単位：％

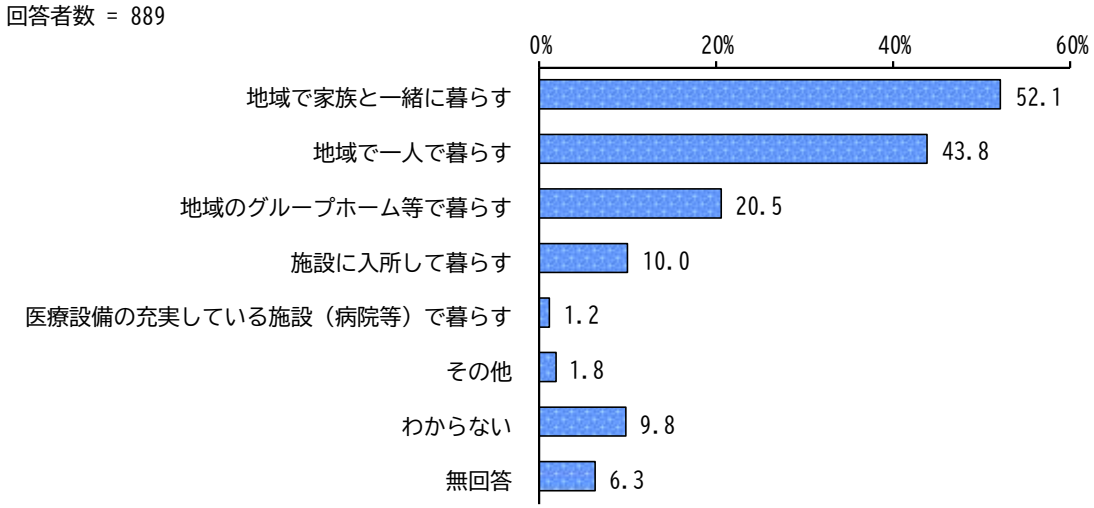
区分		回答者数（件）	地域で一人で暮らす	地域で家族と一緒に暮らす	地域のグループホーム等で暮らす	施設に入所して暮らす	医療設備の充実している施設（病院等）で暮らす	その他	わからない	無回答
全　体		889	32.7	47.5	9.2	4.2	0.7	1.1	26.2	7.9
年齢別	０～５歳	302	30.8	37.4	4.6	2.3	1.3	0.3	35.8	10.9
	６～11歳	432	37.3	51.6	9.7	5.1	0.2	1.4	23.4	5.8
	12～14歳	105	29.5	52.4	16.2	3.8	1.0	1.9	17.1	7.6
	15～17歳	40	12.5	70.0	22.5	7.5	0.0	2.5	7.5	5.0
障害種別	視覚障害	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	聴覚・平衡機能障害	18	33.3	38.9	5.6	0.0	0.0	5.6	38.9	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	肢体不自由	38	7.9	50.0	21.1	21.1	7.9	2.6	34.2	5.3
	内部障害	16	12.5	50.0	12.5	6.3	6.3	0.0	12.5	18.8
	知的障害	294	17.0	47.3	20.7	8.8	1.0	1.4	28.9	9.5
	発達障害	584	31.0	48.1	10.6	4.6	0.3	1.0	25.3	9.2
	精神障害	69	50.7	50.7	4.3	4.3	0.0	0.0	15.9	2.9
	高次脳機能障害	3	33.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病・特定疾患	50	12.0	42.0	16.0	14.0	8.0	2.0	30.0	8.0
	慢性疾患	7	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0	57.1	0.0

年齢別にみると、すべての年齢で「地域で家族と一緒に暮らす」の割合が３割台半ばを超えて最も高くなっています。また、11 歳以下の年齢では、「地域で一人で暮らす」の割合が３割を超えています。

15～17 歳では、「地域のグループホーム等で暮らす」の割合が２割を超え、また「地域で家族と一緒に暮らす」の割合が７割となっており、他の年齢より高くなっています。

障害種別にみると、「地域で家族と一緒に暮らす」の割合は慢性疾患を除いた種別で３割を超えて高くなっています。また、精神障害では「地域で一人で暮らす」の割合が約５割と、他の種別より高くなっています。

（２）主な介助者



主な介助者の考えとしては、「地域で家族と一緒に暮らす」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「地域で一人で暮らす」の割合が 43.8%、「地域のグループホーム等で暮らす」の割合が 20.5%と続いています。お子様本人の希望と比較して、「地域で家族と一緒に暮らす」の割合は同程度である一方で、「地域のグループホーム等で暮らす」の割合は 11.3 ポイント、「地域で一人で暮らす」の割合は 11.1 ポイント高くなっています。

▸クロス集計：年齢別／障害種別

単位：％

区分		回答者数（件）	地域で一人で暮らす	地域で家族と一緒に暮らす	地域のグループホーム等で暮らす	施設に入所して暮らす	医療設備の充実している施設（病院等）で暮らす	その他	わからない	無回答
全　体		889	43.8	52.1	20.5	10.0	1.2	1.8	9.8	6.3
年齢別	０～５歳	302	47.0	50.0	10.6	6.0	1.3	0.7	13.9	8.3
	６～11歳	432	47.0	54.9	22.9	10.4	0.7	1.6	7.6	4.9
	12～14歳	105	35.2	42.9	30.5	16.2	3.8	3.8	8.6	5.7
	15～17歳	40	10.0	67.5	47.5	20.0	0.0	7.5	2.5	7.5
障害種別	視覚障害	3	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	18	55.6	55.6	27.8	16.7	0.0	11.1	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	4	0.0	50.0	75.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	肢体不自由	38	18.4	60.5	39.5	36.8	13.2	7.9	5.3	0.0
	内部障害	16	25.0	62.5	25.0	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0
	知的障害	294	27.9	54.4	47.3	24.1	2.7	1.4	6.5	5.1
	発達障害	584	44.7	53.6	22.8	11.3	0.5	1.7	8.2	6.0
	精神障害	69	58.0	47.8	10.1	2.9	0.0	2.9	10.1	5.8
	高次脳機能障害	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3
	難病・特定疾患	50	18.0	56.0	34.0	22.0	12.0	4.0	4.0	2.0
	慢性疾患	7	14.3	42.9	57.1	57.1	14.3	0.0	28.6	0.0

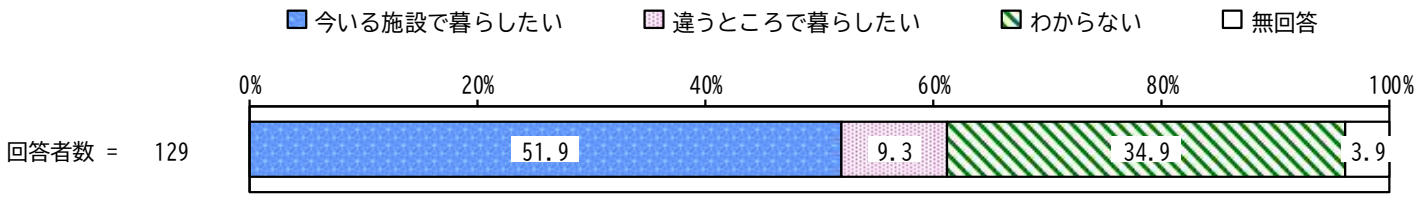
年齢別にみると、すべての年齢で「地域で家族と一緒に暮らす」の割合が４割を超えて最も高くなっています。また、14 歳以下の年齢では、「地域で一人で暮らす」の割合が３割を超えています。

15～17 歳では、「地域のグループホーム等で暮らす」の割合が５割近くと、他の年齢より高くなっています。

障害種別にみると、「地域で家族と一緒に暮らす」はすべての種別で４割を超えて高くなっています。

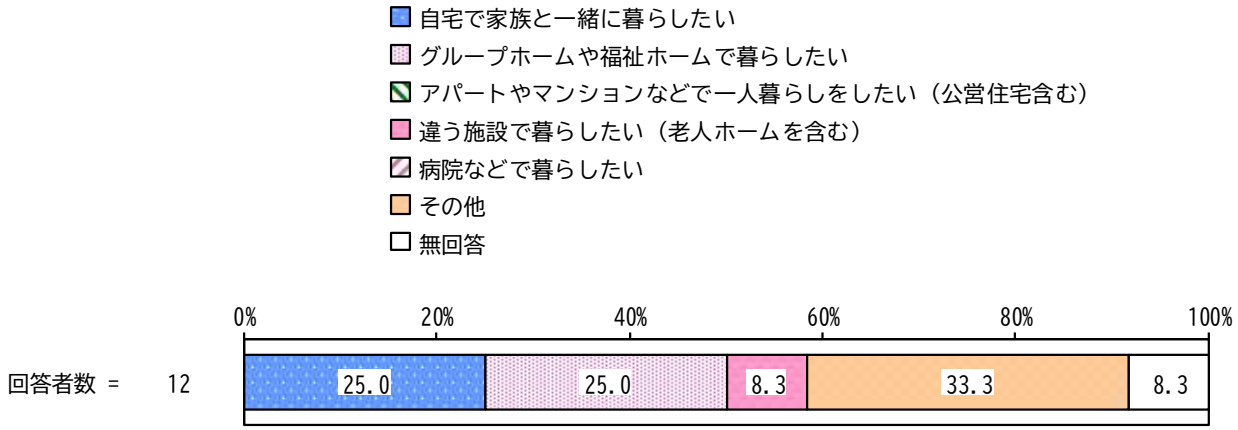
聴覚・平衡機能障害、精神障害では、「地域で一人で暮らす」の割合が５割台半ばを超えて、他の種別より高くなっています。

＜施設入所者調査＞



「今いる施設で暮らしたい」の割合が 51.9%、「違うところで暮らしたい」の割合が 9.3%となっています。

㉒違うところで暮らしたいと回答した人の希望する場所【施設入所者調査】



「自宅で家族と一緒に暮らしたい」、「グループホームや福祉ホームで暮らしたい」の割合がそれぞれ 25.0%と最も高くなっています。